



Walk with Children めぐる

大人 子供

せいび

179号
2022年5月

校長 シスター 小島 理恵

サレジアン・シスターズ創立 150 周年

目黒星美学園小学校の設立母体である女子修道会「サレジアン・シスターズ」は、今年、創立 150 周年を迎えました。1872 年 8 月 5 日、北イタリアの小さな村モルネーゼで、ドン・ボスコの精神に賛同する 11 名の若い女性がシスターになり、修道会が誕生しました。そのうちの一人がマリア・ドメニカ・マザレロです。こうして、ドン・ボスコがトリノで行っていた少年たちの教育事業と同じ精神がモルネーゼで根を張り、現在、世界 97 か国に及ぶ様々な地域で活動が展開されています。日本には、1929 年に来日した 6 名の宣教女によって、その精神が伝えられ教育活動を繰り広げてきました。

150 周年という節目に当たり、世界中のサレジアンの学校ではそれぞれイベントを計画しています。日本では、5 月 24 日にすべての姉妹校・事業所の子ども達や教職員、修道院のシスターがオンラインでつながりながら共にお祝いの集いを行います。

この集いでは、日本管区の管区長シスター宮脇道子のお言葉と参加者の紹介から始まり、150 年の歴史、サレジアン・シスターズの総長マードレ・キアラ・カツォーラのお言葉、マリア・マザレロの手紙の朗読、そして、最後にテーマソング「マリアと共に今ここに」を全員で歌います。50 分ほどの時間ですが、コロナ禍にあって ICT を駆使してのお祝いができることは素晴らしいと思います。



コンネッショネ
Conessione

～つながり～

「Conessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。そこで、ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。

聖書の言葉を通して、キリスト教と私たちのつながりをひもといていきます。



見なさい、あなたの母です。

ヨハネによる福音書 19章 27節

イエス様が十字架にかけられて亡くなられる前に最後に弟子に語りかけた言葉です。

そばには、母であるマリア様がいらっしゃいました。十字架にかけられ、死にゆくわが子イエスを目の前にするマリア様。母親にとってわが子の苦しみは、自分のどんな苦しみよりも辛いものです。マリア様はそこから目を背けることもなく、逃げることもなく、イエス様の苦しみの向こうのあるご復活を信じて祈り、向き合ってくださいました。

私達には、対処方法の見えない感染症、備えていても逃れられない災害など、自分ではどうすることもできない苦しみがあります。そんな時にも、マリア様は私たちのそばにいて、暗闇の向こうにある光を信じ、祈り続けてくださっています。感謝して歩んでいきたいと思えます。

今月は聖母月です。私達のお母様、マリア様を讃え、祈りをささげてまいりましょう。

ようこそ！1年生

令和4年4月7日入学式が行われました。まぶしい朝日が照り、空までも子ども達を祝福してくれているようでした。今年度は1年生と全児童を代表して6年生がそろって式に参列することができ、喜びもひとしおです。そして翌日の対面式では、全校児童で1年生の入学をお祝いすることができました。神様に見守られて子ども達が今年1年元気に登校し、喜びあふれる学校生活が送れるよう祈っています。



新1年生の保護者の方より

1年生 保護者

6年間、目黒星美学園小学校で心身ともに大きく成長させて頂いた長男の卒業式から、はや1年。春の穏やかな日差しの中、小さな次男の手をひきながら、新たな6年間への期待と懐かしさを胸に再び門をくぐりました。

「お兄ちゃんの学校に通える！」とびょんびょんはねるように、入学式を心待ちにしていた次男でしたが、当日は緊張の面持ちでした。でも校舎に入り、6年生のお兄さんが1年生の目線に合うように腰をかがめて優しく声をかけてくださると、随分ほっとしたようでした。

今年の入学式はコロナ禍ではありましたが、学年全員が一同に会し、多くの先生方や6年生にもご参列頂くことができました。先生方のご配慮に満ちた工夫や上級生のこれまでの経験があって成り立つものと、深く感謝しております。

そして、「いつも子どもと共に」、一人ひとりに寄り添ってくださる先生方のもので、思いやりの心を育み、切磋琢磨していく、そのような素晴らしい環境で息子達が成長する機会を頂けたことに、改めて感謝をお伝えするとともに、私達親も子どもをサポートしながら共に成長して参りたいと思います。

～6年生の作文より～

最高学年となった6年生。全員が4月を迎えて、今の自分が考えていることを作文に書きました。6年生教室前の廊下の掲示板には、一人ひとりが考えた思いや意気込みが並んでいて、圧巻です。その中から作文をひとつ紹介します。

最高学年となった自分

6年生

学校の中で僕は最高学年になりました。最高学年ということは、1年から5年までとは違い、中学への第一歩という事もあって少し厳しいところもあります。僕は6年A組という教室に第一歩を踏んだ時に、自分は違う自分になったということを感じました。今までの自分は先生に「これどうするの」などの甘い言葉ばかり言っていたけれど、今は違います。さっきも言った通り、僕は6年生です。低学年の手本となる自分が下級生の前ではずかしいことをしたら、低学年はまねをするに決まっています。将来1年生が社会に出た時に正しくないことをして、はずかしい思いをしないように、私達6年生は、ひとつひとついねいに教えています。1年生はまだ知らない事もあるけれど、6年生らしい姿せいを見せて、いろいろなことを教えてあげたいです。

1日1日嫌なこと、くやしいことなどもあるかもしれないけれど、小学校生活で過ごせる時間はもう1年しかないのだから、時間を大切に過ごしていきます。今自分にできる事、誰かのためにできることを自分で考え、判断して行動できる6年生になって、残りの学校生活を送っていきたくたいです。

対面式4月8日



5月の学校より～

聖母月をむかえて

聖母月を迎えました。私たちの学校の創立者ドン・ボスコは、聖母マリアから受けたお恵みに感謝を表すための祝日を大切にしました。特に5月24日は、特別な恵みに対する感謝をして、徳の花を準備し、荘厳な行列をもって祝いの心を表していました。

私達も徳の花を実行し、人を大切にする言葉や行いを通して、マリア様への感謝の心を表します。私たち一人ひとりの優しさや思いやりを徳の花として行い、聖母マリアから受けたお恵みの感謝と世界の平和を願うひとつきとしたいと思います。

今年度の聖母祭は、一人ひとりが徳の花を実行して、当日マリア様にお捧げし、全校児童で祈りの時をもちます。

